

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600136		
法人名	有限会社 アルファ企画		
事業所名	グループホームみどりの丘		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字昭和229番地		
自己評価作成日	平成22年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年3月16日	外部評価確定日	平成22年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御船山を望む緑豊かなみどりの丘にてゆっくりと楽しく、安心して暮らしていただく！！スタッフ全員がこの気持ちで日々接しております。
立地条件を活かし、買物同行をしたり、隣接する公園にて散歩・お茶・グランドゴルフ等の見学など外気浴にも心掛けています。外部との接触にも力を入れ、ボランティアによる音楽教室なども取り入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念を意識した支援に努めながら、日々のケアでは入居者に背中を向けない、常に目配り、気配りをするを信条としている。職員同士に信頼があり、互いへの声掛けなどで連携プレーが出来ていることがその基となっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティング等にて理念の徹底。ホーム内、事務室等に掲示。	一日一日をゆっくり楽しく安心して暮らせるようにとの思いから、それを理念としている。月1回の全体ミーティングや事業所内の掲示により職員への意識付けがなされ、急がず入居者のペースで支援をしている様子にそれが活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事等に参加を呼び掛ける。地区の夏祭りや隣の公園でのゲートボール、グランドゴルフの見学などで交流を図る。ゴミ集積場の掃除当番。	自治会へ加入し、ゴミ集積場の掃除当番など地域住民としての役割も果たしている。また、公園が隣接していることや、事業所周辺を散歩コースとしているため近隣住民とは挨拶を交わし顔見知りともなっており、ふれあう機会も多い。音楽演奏などのボランティア訪問もあり入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加を頂くことにより皆様の様子を実際に目にしてもらおう。又、みどりの丘便り等配布。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部よりの見方や意見をとり入れ、全体ミーティング等にて報告・検討する。回数を増やしていく努力が必要。	開催回数は年1回程度と少ない。事業所で催し物を行う際に同時開催をして、意見交換だけではなく普段の入居者の様子なども見てもらえたらと模索している。	運営推進会議の機能が発揮された場合のメリットは十分に理解している。今後は、より積極的に地域と関わりを持ち、メンバーの方々からも更なる協力が得られるよう努力していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	できるだけ訪問回数を多くしたり、電話等で連絡を取り合っている。(通所など要支援者も多数利用中)	市役所へ出掛けた折には担当者にも声を掛け、顔馴染みの関係が維持できるように努めており、運営や現場の実情なども伝え易く、実直に対応してもらえる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修等にも参加し意識の向上に取り組んでいる。危険を伴うため夜間は施錠。	全ての職員が身体拘束による弊害を理解している。日中の玄関の施錠もなく、職員同士の声掛けや細かい気配りで見守られている。また、ミーティング等ではケアの振り返りを行い、気付かないうちに入居者へ抑圧感を与えてはいないかも点検している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加しミーティングにて報告・検討。スタッフの健康管理も呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用中の方はいないが、常に御家族とのコミュニケーションを図っており、必要時にはいつでも対応可。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、御家族との会話の機会をできるだけ持つようしている。	意見箱の設置もあるが、家族とは直接話をしてもらえる関係が出来ている。家族の様々な思いを受け止めることで、家族側の表情に変化がみられ、面会時にはその気持ちのゆとりが入居者の心の安定となり良好な関係となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談をやっている。	毎月の第2水曜日に全体ミーティングを行い、非番者も参加して意見を聞くようにしている。また、施設長も宿直勤務をしており日頃から職員とのコミュニケーションが図られている。意見が言い易い雰囲気でもあることから日々のケアでの気づきが改善へと繋がるケースも多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食事会や3年以上勤務者の旅行を計画するなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一番難しい事柄である。個人差もあり、どうやってスタッフのやる気を持続させるかが今後の課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ実施していないが、今後、他施設との交流により研修をやりたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が一番お困りなのか、本人様はじめ、御家族の意見をしっかりと反映させる努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話、昔話、歌などできる限り利用者様が口を開いてもらうように働きかけ、笑いを共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を細かに報告し、状態を把握して頂いた上で家族と共に見守り対応していくように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも対応している。	本人や家族との会話の中からこれまでの人との関わりなどを把握している。ドライブで出掛けた折には自宅近くや馴染みの場所へ立ち寄ったり、電話での連絡を取り持ったりして関係が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけホーム、茶の間にて一緒に過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関などに転出された方の家族からの相談等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉で表現できない方などは、行動や表情からキャッチし、把握に努め対応する。	言葉数が減っていく中で思いを口にしてもらう工夫として家族の名前や馴染みの場所などを使いきっかけを作っている。職員は表情や会話の中から思いを汲み取ろうと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや御家族より話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって波があつたりもするが、毎日の申し送り又、全体ミーティングにより現状の把握を徹底し、その波に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	本人にとってベストなケアを提供するために、見直しも設定期間にとらわれることなく臨機応変に対応している。変更が生じた場合は、ケアマネジャーから全職員へその旨が告げられ、確実に情報が共有されるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は充分に出来ており、計画作成担当者との連携もとれている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	宅老所との関わりや整形外科のリハビリ等紹介などニーズに合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の中心街に位置しているので、病院、ショッピング、図書館、文化会館など気軽に利用でき、協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が常に同行し、医師との関係も十分に良好である。	入居後は近くの協力医を希望する方が殆どでスムーズに移行されている。受診時には家族へ依頼もするが日頃の様子を知る事業所の看護師も同行し医師との連携を図っている。また、家族が出て来られない場合は、当日中に結果報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化については看護師が勤務中以外でも、常に相談し支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ドクターも交え、御家族の希望を最優先にして対処している。	本人や家族の意向を踏まえ、安心して納得した最期を迎えられるように、医師や職員も交えて、随時、意思の確認を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング時の研修で取り入れているが、今後はもっと具体的に研修強化していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の回数を増やしていきたい。消防設備工事については検査を残すのみ。	年2回、夜間の想定も入れ、入居者と一緒に避難訓練を行っている。職員は消防署での研修に参加したり、消火器の取り扱いも体験している。隣接の公園を一時、避難場所と決め家族にも連絡している。	夜間等職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、近隣住民の参加協力を呼びかけたり、消防署員の立会いも求めるなど更なる協力体制の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーのマニュアル等を作成 失禁などの時には特に注意をして対応している。	年長者として敬意を払い、人前でのあからさまな介護ではなく、さりげない言葉掛けや誘導でプライバシーにも配慮している。また、施設便りに掲載されるスナップ写真等についても、入居時に家族からは了承を得ており、個人情報の取り扱いにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	急がせないようにして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個人のペースや気持ちにできる限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、整髪、爪切り、洋服選び等々の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の利用者様にできる事をして頂いている。 (野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、トイレ拭き、配膳、つぎ分け等)	体力の低下に伴い、買い物などは難しくなっているが、ごぼうを削いだり、器へつぎ分けたりと出来る範囲での準備や片付けは一緒に行っている。食べたい物を尋ねメニューに加えたり、職員も同じテーブルを囲み和やかに食事が出来るように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や特変のチェック表を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と口腔ケア実施している。 必要に応じ義歯ポリドント洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックボードを作り、時間的な誘導や声かけをしており、排便に関しても十分に把握し対応している。	トイレでの排泄を大切にしたいと考えている。そのための工夫として、トイレ内に掛けられたボードに個々の一日の排泄タイムをポイントしている。それによって全職員が入居者のリズムを把握し、さりげない見守りの中で適切な誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や野菜を十分に取り入れている。又、毎日の体操や廊下歩行など実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めている。しかし、希望や状態に合わせ順番を決めたり、流水浴を取り入れている。	原則は月・水・金の週3回を入浴日としている。浴槽は流水が作られる構造となっており、身体を程よく刺激するお湯の流れとなっている。衣服の脱ぎ着は殆どの入居者に介助が必要だが、寒さや羞恥心などにも配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方は昼寝をして頂いたり、室内の温度調節をして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の申し送りやノートによる伝達で全員が理解し、服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフが共に貼り絵、ぬり絵、計算ノート、ゲーム、歌やCD、本の読み聞かせなど行い、楽しく過ごして頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ病院受診には家族同行にて外出をして頂いている。車椅子利用にて公園散歩など戸外に出かけている。	事業所の向かい側が公園となっているため日常的な散歩や、そこで行われるグランドゴルフ、ゲートボールの見物をしたり地域住民との交流の機会ともなっている。歩行困難な入居者でも車椅子を利用し戸外の散歩などに連れ出している。四季折々のドライブにも積極的に出掛け、楽しみ事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想などにつながったりする事もあり、現在は全員分をホームにて管理。希望があれば、おやつなど購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供さんへの電話を希望される方があり、その時は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ季節感を取り入れるように配慮している。又、廊下・トイレなどは温度差に注意を払っている。	玄関には季節を感じる置物などが飾られ、ホール内のソファには入居者が思い思いに寛いでいる。春先にはウッドデッキでの日向ぼっこも心地よい。浴室やトイレなどもきれいに清掃され臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて仲良し同士と一緒に座ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や枕は自宅より持ってきて頂き、家族の写真など飾ってもらっている。	入居者は使い慣れた物、馴染みの品を持ち込み、そのことに制限はない。壁には家族の写真や、趣味で書いた絵なども飾られ居心地よく過ごせるようにとその方らしく整えられている。作り付けの棚には落下時の用心のためティッシュなどの軽い物だけを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂など部屋の表示。ホーム内はフラットスペースにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない